



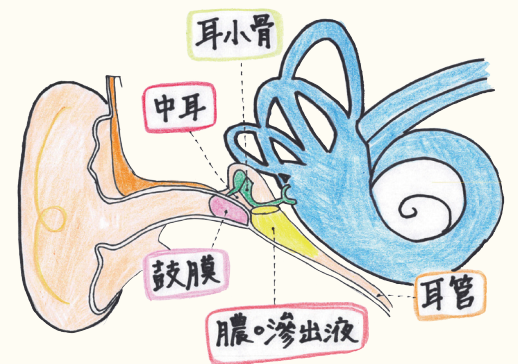
おやこあら新聞



痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)

しらつち耳鼻咽喉科院長のしらつちです！

耳鼻科の病気で一番有名なものの一つに中耳炎があります。みなさんよくご存知の通り、子どもの病気の代表選手ですよ！鼻と耳を結ぶチューブ(耳管)は大きくなるにつれて少しずつ調子を整えていくため、小さなうちは中耳炎を起こしやすいといえます。小さな子どもの耳管は未熟なため、より気圧調節で問題を起こしやすく、聞こえに影響が出て、ひいては言葉の発達に影響を及ぼします。本特集では、当院で火曜日午後の小児鼻専門外来で、なおりの悪い中耳炎治療のエキスパートとしてご活躍の菊池奈美先生から、“気圧に関係する痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)”のお話をお聞きしたいと思います！では菊池先生お願いします。



こんにちは。火曜日午後の小児鼻専門外来を担当させていただいている菊池です。今日は痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)についてお話ししたいと思います。

中耳炎と聞いて、皆さんはどのような想像をしますか。きっと、耳が痛いということが一番に考えると思います。しかし、痛くない中耳炎もあるのです。滲出性中耳炎という病気なのですが、あまり馴染みのない名前かもしれません。滲出性中耳炎とは、鼓膜の奥の中耳といわれる部屋に水(滲出液)がたまった状態で、10歳までの小児に多い病気です。中耳に水がたまると、耳がふさがった感じになります。高いところに登ると耳がふさがった感じになりますが、その状態がずっと治らないような感じです。滲出液の量が多いと

聞こえが悪くなります。鼓膜の奥で耳栓をしているような状況です。しかし、子どもは順応力が高いためその状態にすぐに慣れてしまい、症状を訴えないために、気づかれずに長い時間を過ごしてしまうことがあります。聞こえが悪いまま長い時間を過ごすと、言葉の発達に影響がでてしまうことがあります。発音が変だということよく調べてみると、滲出性中耳炎が原因となっていることがあります。また、滲出性中耳炎は鼓膜の変化(へこんだり薄くなったりすること)を生じてくることもあり、将来、癒着性中耳炎や真珠腫性中耳炎などの、手術を要する治りの悪い中耳炎に進行することがあります。そのようなことを防ぐために、症状がなくても、滲出性中耳炎をきちんと治療することが必要です。



Q 痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)の症状

A 小学校高学年ごろになると、耳の詰まった感じや違和感を自分で言えますが、低年齢では自分で症状を訴えることは少ないです。耳をよく触って気にしている、呼びかけても振り向かない、えっ?と聞き返しが多くなっている、テレビの音が大きいもしくは近くで見るようになったなどの症状がみられる場合には、一度、耳鼻咽喉科でのチェックをおすすめします。

Q 痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)になぜなるの？

A 中耳といわれる部屋は、耳管という、耳と鼻の奥をつないでいる細いチューブでつながっています。本来であれば、その耳管を通して空気が鼓膜の奥に入っていくのですが、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎などの鼻の病気があったり、鼻の奥のアデノイドという扁桃腺が腫れていたり、また耳管の働きが体質的に悪い人は、鼓膜の奥に水がたまった状態になります。その為聞こえが悪くなります。急性中耳炎の治療が不十分な時にも、滲出性中耳炎に移行することがあります。

Q 痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)で注意することは？

A 鼻の奥と中耳がつながっていますので、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎の治療を行うことが大切です。鼻すすりは耳管の通りを悪くしますので、滲出液が溜まりやすくなります。鼻すすりをやめて、やさしく片方ずつかむようにしましょう。鼻がまだかめない子どもさんは、家庭用の吸引機で鼻を吸ってあげることも有効です。中耳にたまる水は、中耳の粘膜から分泌されるもので、外から入るものではありませんので、お風呂やプールの水が耳に入ることは原因ではありません。

Q 痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)の治療方法

A 中耳にたまっている滲出液が、聞こえを悪くしていますので、少しでも滲出液を減らすことが治療になります。中耳にたまっている滲出液を減らすお薬として、カルボシステインが有効です。また、漢方薬の十全大補湯も有効ですが、味が飲みにくいのが子どもさんには難点です。耳の治療と一緒に、耳に悪い影響を与えている鼻やのどの病気の治療を並行して行います。

飲み薬で効果が不十分な場合には、鼓膜を切開して滲出液を直接出したり、それでも繰り返す場合には鼓膜を切開した部分に小さなチューブを入れて、水がたまらないようにします(鼓膜チュービング)。鼓膜チュービングは非常に有効な治療方法ですが、稀にチューブを入れていた穴が残り、将来鼓膜の穴を閉じるための手術が必要となる可能性があることがデメリットです。

滲出性中耳炎はすぐに治る場合も多いのですが、なかなか治りにくく、お薬を飲んでも何カ月もよくなりません場合があります。そんな時に、鼓膜切開をしたほうがよいのか、チューブを入れたほうが良いのか、悩ましい場合があります。当院では、滲出性中耳炎のガイドラインに従い、複数の耳鼻咽喉科専門医で治療方法を検討して決めています。

耳管の働きは成長とともに良くなることが多く、大きくなると中耳炎になりにくくなるのはよく知られています。滲出性中耳炎も同じで、大きくなると治りやすくなります。症状がないのに、いつまで通院を続けたいといけないう不安になることもあると思いますが、大切なことは中耳炎にならない年齢に成長するまでに次の2つのことが起こらないかどうかです。1つめは、聞こえにくいことにより言葉や新しいことを学習するのに不利になっていないか、2つめは鼓膜の変化(へこんだり薄くなったりすること)によって将来治りにくい中耳炎に進行する様子がないかです。この2つが少しでもみられる場合には、早くチューブを入れたほうがよいということになります。そしてこの2つ変化は子どもが口にすることができない為、定期的に検査や診察を受けていただいて、治療を続けていくことが重要です。

Q 痛くない中耳炎(滲出性中耳炎)は大人でもなるの?

A 大人でもなります。風邪をひいて鼻の調子が悪くなった時、飛行機に乗って気圧の調節がうまくできなかった時などをきっかけになる場合もありますし、もともと耳管の働きが弱い方はきっかけがないのにもなります。稀ではありますが、耳管と鼻がつながる上咽頭という部分に腫瘍ができています。大人なのに滲出性中耳炎を繰り返す方は、ファイバー検査にて腫瘍がないかどうかを確認する必要があります。腫瘍は白土先生が専門ですので、気になる方は聞いてみてください。

先生からのひとことアドバイス ～“時間”とともにかわる“耳管”のお話～

小さな子どもは、とにかく面倒なことが嫌いです!おもちゃは出すのは好きでも、お片づけは嫌いです。鼻をかめといっても、面倒なら鼻すすりでごまかします。小さいうちは鼻をだらんと垂らしていても、親に拭いてもらったり、病院に連れていかれて治療しますが、鼻すすりで表面上鼻がでていないと、お母さんもあまり気にならなくなり、そのままにしがちです。しかし、鼻すすりはいろんな病気の原因となります。まず鼻水が内側に溜め込まれ炎症をおこすと、鼻炎や副鼻腔炎として臭くて汚い鼻水や口臭(膿性鼻汁)がでてきますし、耳管が狭くなって滲出性中耳炎につながります。さらに小学校にあがるまでは扁桃腺が大きく肥大したり、アデノイドが腫れたりして、滲出性中耳炎になりやすい、つまり“耳管が狭くなりやすい”時間(時期)です。大きくなって、耳管が成熟してくると、小学校に上がれば、この手の中耳炎はグッと減り手がかからなくなります。

余談ですが、思春期や大人になってダイエットや病気のストレスなどで過度の体重減少となれば、今度は耳管が開きやすい時期(時間)となり、常に開きっぱなしの耳管開放症をおこすことがあります。時期(時間)とともに“耳管にまつわる問題もかわっていく”というお話でした!



“キニナル”おやこあらのミニコラム



受付の松尾です。今回からおやこあら新聞の編集に関わらせていただく事になりました!よりみなさんの生活にお役に立てるような情報をお届け出来るお手伝いが出来ればと思います(^^)今回はおすすめのお店を紹介したいと思います。『かぼちゃ屋』というカレー屋さんです!大きくカットされた焼きかぼちゃののってカレーとも相性抜群でとても美味しかったです☆ご夫婦でやられてる様で奥さんの手作りケーキなども人気だそうですよ!みなさんもぜひ☆



しらつち耳鼻咽喉科

Shiratsuchi Otorhinolaryngology Clinic

診察時間

月 火 水 木 金 土 日・祝

9:00～12:30
(最終受付 12:00)

● ● ● ● ● ● ×

14:00～18:00
(最終受付 17:30)

● ● × ● ● × ×

休診:水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

ここよ はないな

TEL:092-554-8717

〒811-1344 福岡市南区三宅3丁目16-26

<https://shirajibi.com>



HP QRコード

